

南スーダンでの職業訓練の様子。講師の指導のもと、集中して調理実習に励む訓練生たち。

特集 南スーダン 職業訓練事業

職業訓練を取り巻く現状と成果



南スーダン首都ジュバの様子

JCCPは、南スーダンの首都ジュバにて4年近くにわたり、脆弱な経済状況にある若者を対象として、サービス業（ホテルやレストランの給仕、調理補助員など）に関する職業訓練・就業支援を実施してきました。260人以上の若者が、これまで計7期の訓練を修了してきました。現在は、第8期の訓練生が、座学・実習訓練やホテルやレストランでの実地研修（OJT※）を終えたところです。

職業訓練では、単なる技術の習得に留まらない、社会常識や就労倫理についての教育も重視しています。JCCPは、このようなきめ細かな支援・指導を通じ、第7期の訓練生の就職率が76%に至るなど、他の訓練を行っている団体と比較しても高い実績を収めてきました。またその成果を背景に、政府などから訓練の継続・発展を強く要望されています。今回の特集では、そのような訓練修了生の職場での活躍と現役訓練生の奮闘の様子をお伝えします。

※ OJT：On the Job Trainingの略称。実際に現場での職務遂行を通じて学ぶ研修。

*この事業は、JCCP会員や寄付者の皆様からのご支援と、独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託により実施しています。

職業訓練修了生の活躍：ウェイター／ウェイトレス

マヌエラ・サンデーさんは第7期生で、国連平和維持活動に参加している自衛隊の食堂でOJTを受けました。現在は、レストランでウェイトレスとして勤務しています。訪問した際には、笑顔を絶やさずにきびきびと働いており、仕事を楽しんでいるようでした。

毎週金曜日がお休みなのですが、この貴重な週1日のお休みは大学に通って勉強する日にしているということです。マヌエラさんは、現状に満足することなく、将来は会計士になりたいという夢ももっています。



訓練当時、調理実習に取り組むマヌエラさん



現在のマヌエラさん。ウェイトレスとして働いている。

9月21日のピースイベントの様子。子どもたちによる歌のパフォーマンス。

草の根平和構築支援

ナイロビ マザレ・スラムでの「コミュニティ平和構築事業」

ナイロビで「ピース・セレモニー」を国際平和デー（9月21日）に開催

JCCPは2012年3月より、ケニアの首都ナイロビにあるマザレ・スラムで「コミュニティ平和構築事業」を行っています。当事業の中で実施した、平和イベントについてご紹介します。

現在実施しているコミュニティ平和構築事業の一つに、早期警戒のためのネットワーク作りがあります。この活動の一環として、JCCPは国際平和デーである9月21日に、マザレ・スラムで「ピース・セレモニー」を開催しました。このイベントの目的は、住民や現地NGO、警察関係者が一堂に集い、平和を誓うことで協力関係を強めることでした。



マザレ・スラム内での「平和の行進」の様子。
"Empowering Communities for Peace"の横断幕を掲げ、平和の歌を歌いながらスラムを練り歩いた。

セレモニーは「平和の行進」で幕を開けました。平和の行進では、学生、現地NGOや地域リーダー達が旗を掲げながら平和の歌を歌い、1時間ほどマザレ・スラムを練り歩きました。この行進を見た子どもたちや住民が行進に加わり、共に歌を歌いながら、会場にたどり着きました。行進が終わり、会場に到着したころには、300名を収容できる会場は満員となりました。

「平和の旗」への署名に続き、学生のスピーチ、若者グループのダンス、聴覚障がいの人々による手話や人形劇により、それぞれが平和を訴えました。日本大使館からの職員や、地域リーダー、そして警察関係者からのスピーチもあり、各々の立場から平和をどう構築していくかの決意表明が話されました。

セレモニーの最後には全員が一体となり、“Amani Yetu, Nguvu Yetu”（我らの平和、我らの強さ）と叫びました。平和のメッセージをスラムの住民たちが自分たちの手で発信する日となりました。

残念なことこのイベントが行われている頃、ナイロビ北部のショッピングモールではテロ事件が起こり、多くの死傷者が出ました。マザレ・スラムから発信された平和のメッセージがいつかケニア全土に行きわたり、住民自らが紛争・暴力を予防することができるよう、JCCPはこれからも紛争予防・平和構築支援を続けてまいります。

※この事業は、JCCP会員や寄付者の皆様からのご支援と、外務省（日本NGO連携無償資金協力）からの助成により実施しています。



聴覚障がいの人々による人形劇の様子



「平和の旗」への署名の様子

リサーチシンポジウムの様子。ソマリアでのフィールド調査の結果が報告された。



平和構築専門家の育成支援

IPSTC：PKO訓練センター支援、第3フェーズ進捗報告

2013年5月より第3フェーズを迎えた国際平和支援研修センター（IPSTC）への支援事業ですが、2013年8月19日から30日まで開催された南スーダン人対象の「人権コース」に邦人講師1名を派遣しました。今回派遣されたのは、防衛省の陸上自衛隊研究本部に勤務する浦上法久2等陸佐です。

浦上2佐は、昨年まで南スーダンの首都ジュバに駐在し、国際連合南スーダン共和国ミッション（UNMISS）にて国際平和協力業務に従事していました。南スーダン人権コースの最後を締めくくる講師として、具体例やユーモアを交えながら、日本の南スーダンにおける人権分

野の貢献について詳細に説明していただきました。とくに国際機関や国際協力機構（JICA）、JCCPをふくめたNGOとの連携を通して、効果的な支援に積極的に取り組んでいる事例が紹介されました。

本コースの受講者は、司法省、人権委員会、UNMISS、マス・メディア、市民団体などから選抜された南スーダン人21名で、うち3名が女性でした。南スーダンの人権保護を担う参加者たちは、国際法における人権の枠組みと国内法への適用、女性・子ども・国内避難民への保護などについて最新の理論と実践を学びました。

人権コースに参加した南スーダン政府要人は「日本が南スーダンでどんな活動をしているのかよくわかった」と感想を述べました。講師として派遣された浦上2佐も、多数の南スーダン政府要人と一堂に会する機会は、日本と南スーダンとの関係強化に資する貴重なものであることを強調しました。



浦上2佐による講義の様子

IPSTC：ソマリアの平和構築能力強化のためのフィールド調査



ソマリアでのインタビュー調査の様子。インタビューは、長老、若者、女性など、グループごとに行った。

現在、ケニアのIPSTCはソマリアの紛争暴力予防研究所（OCVP）と協力し、ソマリアの平和構築能力強化のための合同調査事業を行っています。

JCCPの支援により、2013年8月にソマリ人調査員11人が調査手法研修を受け、その後ソマリア全土で、市長や若者、実業家、国内避難民などへのインタビューが行いました。10月現在、IPSTCに送られたインタビューのデータはケニア人研

究者らによって分析され、研究報告書の執筆が進んでいます。

JCCPは今後も、現地の実務家・研究者らの能力強化を支援するとともに、ケニア人、南スーダン人、ソマリ人、そして日本人の専門家による東アフリカ地域の平和構築への知的貢献を促進すべく、努力してまいります。

※この事業は、JCCP会員や寄付者の皆様からのご支援と、国連開発計画（UNDP）からの委託により実施しています。